
wam セミナー 日本軍「慰安婦」の聞き取りとその記録(1)

ハルモニたちの叫びを受け止めて

日 時：2025年9月13日（土）14：00～16：30

場 所：wam オープンスペース

参加費：1000円 （wam 非会員は1200円）

ゲスト：伊藤孝司さん

イベントにご参加のみなさまへ

wam ではシンポジウムを撮影・録音しています。それらの写真・音声・映像はシンポジウム報告・紹介の文章等に使用されることがあります。撮影を望まない方は wam スタッフにお知らせください。

wam

アクティブ・ミュージアム
女たちの戦争と平和資料館

women's active museum
on war and peace

【ゲスト紹介】 いたう・たかし

1952 年長野県生まれ。フォトジャーナリスト。日本の過去と現在を、アジアの民衆の視点からとらえ、植民地支配やアジア太平洋戦争で日本によって被害を受けたアジアの人々、日本がかかわるアジアでの大規模な環境破壊を取材し、雑誌・テレビなどで発表している。主な著作に『写真記録 破られた沈黙—アジアの「従軍慰安婦」たち』（風媒社、1993 年）、『無窮花（ムグンファ）の哀しみ—証言 性奴隷にされた韓国・朝鮮人女性たち』（風媒社、2014 年）、『原爆棄民 —韓国・朝鮮人被爆者の証言』（ほるぷ出版、1987 年〔2025 年に論創社から増補改訂版〕）、『ヒロシマ・ピョンヤン—棄てられた被爆者』（風媒社、2010 年）、『ドキュメント 朝鮮で見た〈日本〉—知られざる隣国との絆』（岩波書店、2019 年）、『サラン 波乱の海を越えて 韓国・朝鮮で生きる日本人女性たちの物語』（風媒社、2025 年）など多数。

企画主旨

wam セミナー 日本軍「慰安婦」の聞き取りとその記録

1990 年代に日本軍の「慰安婦」として性暴力被害を受けた女性たちが語り始めてから、30 年以上が経ちます。この間、歴史を否定する政治家は後を絶たず、第 2 次安倍政権以降の日本政府は、政府として日本軍性奴隷制の事実さえ否定し、その見解を公的に主張するようになりました。一方で、何度も来日して、日本政府が事実を認めて謝罪と賠償をするよう語ってくれた女性たちも、その多くがこの世を去りました。

戦争での被害や加害の「記憶の継承」は世界的な課題ですが、記憶をどうつないでいくのかは、どの国・地域でも試行錯誤が続いており、wam もまた例外ではありません。日本軍から性暴力被害を受けた女性たちの「あったことを、なかったことにしないで」という遺言のような叫びを心に留めながら、性暴力の記録をどうアーカイブズとして公開できるのか、議論と検討を重ねています。

2005 年の開館から 20 年、wam では日本軍の「慰安婦」にされた女性、一人ひとりに出会えるように「証言パネル」を制作してきました。このような展示活動は、日本軍の「慰安婦」にされた女性たちの声を聞き取る作業を続けてきた、たくさんの支援者、研究者、ジャーナリストに支えられてきました。wam セミナー「日本軍『慰安婦』の聞き取りとその記録」では、被害証言を聞き取る作業を続けてきた方々から、お話を聞く機会をつくっていきます。

ハルモニたちの叫びを受け止めて

wam セミナー 日本軍「慰安婦」の聞き取りとその記録(1)／2025 年 9 月 13 日(土)

伊藤 孝司

<おことわり>

- ・朝鮮民主主義人民共和国を「朝鮮」とする。日本では、朝鮮半島南側の大韓民国を略して韓国と呼んでいるが、北側を「北朝鮮」と地域で呼ぶという矛盾した使い方をしているから
- ・日本軍によって被害を受けた女性を、私は「性奴隷にされた女性」と呼んでいるが、ここでは「被害女性」、韓国と朝鮮の被害女性については「ハルモニ」とする

●なぜ被害女性の取材を始めたのか

- ・1980 年代初めに韓国で被爆者を取材
- ・続けてサハリンの炭鉱などへの強制連行、朝鮮・台湾からの日本軍の軍人・軍属の取材
- ・戦争に動員された女性たちの取材を始める(日赤などの従軍看護婦、軍需工場への「朝鮮女子勤労挺身隊」)

●金学順さんから始まったハルモニ取材

- ・「内鮮一体」を掲げて朝鮮植民地統治をしながらも、朝鮮の女性を日本軍専用の性奴隷にしたことは、その政策の欺瞞性・暴力性を象徴
- ・金学順さんを 1991 年 10 月、文玉珠さんを 12 月にインタビュー
- ・ハルモニたちは韓国社会の底辺で生活(使われなくなった貯水槽、光が入らない半地下)
- ・「女性のためのアジア平和国民基金(アジア女性基金)」による大きな混乱

●沈達連さんの記憶を求めて

- ・自宅近くで日本兵に拉致され、記憶の一部を失った沈達連さん
- ・一緒に探しに行き、自宅跡・拉致現場・当時を知る人たちを見つける

●取材は朝鮮・フィリピン・インドネシア・台湾へ

- ・朝鮮・フィリピン・インドネシア・台湾で取材を始める
- ・日本軍占領地での被害女性たちの大きな傷痕

●朝鮮では 1992 年から 14 人を取材

- ・関心が持たれなかった朝鮮の被害者たち
- ・名乗り出た被害女性は 219 人で、そのうち名前と顔を明らかにしたのは 46 人
- ・妊娠し子宮ごと胎児を取り出された女性たち
- ・「慰安所」からの脱出に失敗し、全身に入れ墨をされた鄭玉順さん

●郭金女さんの被害を映画に

- ・郭金女さんの被害を映画にするため、2003 年に SARS での予防隔離を覚悟で朝鮮へ
- ・2017 年に、郭さんのお墓参りに

●南北の被害女性の出会い

- ・1992 年 12 月の東京での、金学順さんと朝鮮からの金英実さんとの感動的な出会い
- ・2002 年 5 月の平壤での国際会議に、韓国からは李容洙さんと文必基さんが参加

●朝鮮に残る「慰安所」の建物

- ・咸鏡北道清津市芳津で見つかった2棟の「慰安所」と、性病検査の診療所、死亡した女性の墓
- ・清津市羅南には、陸軍第 19 師団の将兵が通った大規模な「慰安所」跡
- ・羅先経済特区の羅津に残る「慰安所」の基礎部分

●どのように被害女性と向き合ったのか

- ・被害女性の取材を続けて来ることが出来たのは、それまでにさまざまな被害者たちからの厳しい日本批判を受け止めてきたから
- ・初期に行ったインタビューの重要性

●被害者証言を後世に残す

- ・さまざまな被害者の証言を 13 冊の本、朝鮮の被害者を「アリラン峠を越えて」「銀のスッカラ」「ヒロシマ・ピョンヤン」という映画に
- ・被害女性に関する録音テープ 112 本、ビデオテープ 161 本を、wam がデジタル化して保管

●未来のために求められる過去の清算

- ・アジア太平洋地域の被害者からの謝罪・補償要求に、一切応じなかった日本政府
- ・いくら時が過ぎても、植民地支配や侵略による加害の歴史と正面から向き合い続け、過去を清算しなければならない

<この夏に出した 2 冊の証言集>

「原爆棄民 韓国・朝鮮人被爆者の証言[増補改訂版]」

「サラン 波乱の海を越えて 韓国・朝鮮で生きる日本人女性たちの物語」

<入手可能な被害女性に関する書籍・DVD>

「無窮花(ムグンファ)の哀しみ <性奴隷>にされた韓国・朝鮮人女性」

DVD「アリラン峠を越えて」